



早めに対処したい

— 認知症と物忘れ —

指導：東北大学加齢医学研究所 教授

荒井 啓行

企画：
日本医師会

No. 363

物忘れ＝認知症ではない

アルツハイマー病のように物忘れから始まる認知症がありますが、物忘れ＝認知症ではありません。認知症とは“「認知機能」の低下によって生活障害を起こした状態”を指します。この「認知機能」の1つとして記憶があり、記憶力の低下が一般には物忘れとされています。

認知症かな？



3種類の記憶

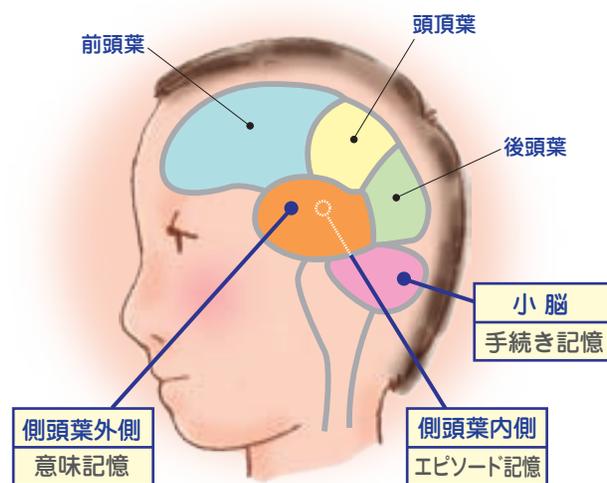
記憶は大きく、エピソード記憶、意味記憶、手続き記憶の3つに分かれ、その機能は脳のそれぞれの部位がつかさどっています (表)。

認知症の原因の多くを占めるアルツハイマー病では、まずエピソード記憶の障害がみられます。初めのうちは過去の記憶や判断力、計画性などが残っているので日常生活は自立していることが多く、「軽度認知障害」と呼ばれる段階です。

この段階で、MRIを用いて脳の状態をみると、単なる物忘れか認知症の初期かの判断や、認知症であれば進行状態の手がかりが得られます。

表 記憶の分類

記憶の種類	主な内容	機能をつかさどる脳の部位
エピソード記憶	個人の固有な体験にかかわる記憶、例えば昨日の夕食で食べたもの	そくとうよう 側頭葉の内側
意味記憶	学習によって得た知識や物と言葉の対応などの記憶	側頭葉の外側
手続き記憶	車を運転したり楽器を演奏するなど、体で覚えたもの	小脳



早めに受診しましょう

一方、抗うつ薬、抗精神病薬、抗不安薬（睡眠薬）などで認知症に似た状態が引き起こされる場合があります、服用薬の定期的なチェックも大切です。

「最近の記憶が曖昧、直前の記憶を保てない、記憶が5分ともたない」などと身近な人が感じたら、患者さんと一緒にぜひかかりつけの医師を受診してください。